

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス 10周年記念特別企画
サントリーホール・エグゼクティブ・プロデューサー 眞鍋圭子さん
特別記念講演会

世界の巨匠達が奏でたサントリーホールの30年

「NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス」のCDコンサートは、今年10周年を迎えます。

クラシック音楽の名演奏を発掘し、手作りの極上オーディオ装置で再生するというポリシーを貫き、地方の音楽文化の普及に努めて参りました。10周年の記念として、サントリーホール・エグゼクティブ・プロデューサーとしてご活躍中の眞鍋圭子さんの特別記念講演会を開催致します。

サントリーホールは今年開館30周年を迎え、ウィーン・フィル等多くの記念公演の準備で忙しい最中、眞鍋さんは地方都市の音楽ファンのためにスケジュールを割いてくださいました。

世界最高のホールのひとつ、サントリーホールで繰り広げられた巨匠達の名演奏と名演奏家達の素顔について、直接巨匠達の素顔に接してこられた眞鍋圭子さんのお話を、名演奏を聴きながら直接聞く事ができるという贅沢なひとときをお楽しみください。



日 時：2016年6月4日(土) 午後2時00分～午後4時30分

場 所：龍ヶ崎ショッピングセンター「リブラ龍ヶ崎」2階旧映画館

講演テーマ：世界の巨匠達が奏でたサントリーホールの30年

講 師：眞鍋圭子さん (サントリーホール・エグゼクティブ・プロデューサー)

《眞鍋圭子さん・略歴》

愛媛県生まれ。上智大学文学部哲学科を卒業後、東京芸術大学別科チェロを専攻。ベルリン自由大学とミュンヘン大学にて音楽学専攻。留学中に音楽ジャーナリストとして活動を始め、巨匠ヘルベルト・フォン・カラヤンへのインタビューを切っ掛けに信頼関係を築き、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団来日の際にはカラヤンの秘書を務める。また、1975年、1977年のカール・ベーム来日の際には通訳として行動を共にし、その後、サントリーホール設立プロジェクトに参加。オープニング自主企画のプロデューサーとして活動。自ら発案したホール・オペラ、ウィーン・フィル演奏会の企画をプロデュース。オーストリア共和国功労金受賞。著書に『素顔のカラヤン 二十年後の再会』(幻冬舎)、『カール・ベーム』(共同通信社)、『バイエルン国立歌劇場』(音楽之友社)等がある。

演奏曲目

リヒャルト・シュトラウス：“アルプス交響曲”から

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1987.6.19フィルハーモニーホール)

ブラームス：交響曲第1番ハ短調 第4楽章から

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1988.5.5サントリーホール)

—— (休憩10分) ——

シューベルト：交響曲第8番ハ長調“サ・グレート” 第1楽章から

カール・ベーム指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 (1972.9.12ベルリン・フィルハーモニーホール)

カール・ベーム指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 (1977.6.19聖カール・ボロメウス教会)

モーツァルト：交響曲第36番ハ長調“リンツ” 第4楽章

ズビン・メータ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 (1989.1.15ウィーン・ムジークフェラインザール)

ワーグナー：楽劇“トリスタンとイゾルデ” 愛の死から

クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 (2003.11.17サントリーホール)